

『恩納村史 第二巻 考古編』
刊行

待望の2巻目、『恩納村史 第二巻 考古編』が刊行されました。

恩納村には仲泊遺跡、山田グスク、熱田貝塚などをはじめ、多くの遺跡が残されています。大昔、恩納村にいた人々はどうの暮らしをしていたのでしょうか。村内の遺跡から発掘された遺構や遺物から、大昔の恩納村の環境や人々の暮らしを考えることにロマンを感じます。一方で、出土したひとつひとつの資料を丁寧に整理して、検証していく作業は本当に細かく、時間のかかる作業です。新たな発見があるたびに検証し、



原稿の検討会議

また他の地域との比較を行った記録で考古学は積み上げられてきました。こうした記録を本書には反映していただきました。

恩納村では教育委員会によって発掘調査が行われており、現在進行形で新たな遺跡が発見されています。日々情報が更新されている考古学ですので、今後、新しい事実が発見されることもあると思います。

本書は考古学からみた歴史をなるべく身近に感じていただけるよ



執筆者の方々が獣骨を整理している様子

う、写真や図版などを多く取り入れ、分かりやすい内容となるよう努めました。目次は以下の通りです。

はじめに

第1部 先史時代の恩納村

第1章 旧石器時代から縄文時代の恩納村

第2章 弥生〜平安時代並行期の恩納村

第2部 歴史時代の恩納村

第1章 グスク時代の恩納村

第2章 近世・近代の恩納村

第3部 自然遺物からみた先史時代の恩納村

第1章 自然遺物

第2章 塩屋貝塚

第3章 恩納村で出土した動物の骨

第4部 恩納村の遺跡(資料編)



現代の貝を食べて、大昔の暮らしを検証